

## 小児のスポーツ障害

座長：日下部 虎 夫

成長期の子どもの安全なスポーツ活動の推進と安全管理の実践を目的として設置された日本小児整形外科学会のスポーツ委員会の最初の活動として、「小児のスポーツ障害」のパネルディスカッションが行われた。パネリストはスポーツ委員にお願いした。

戸祭委員は肩関節のスポーツ障害であるリトルリーガー肩について、その原因として肩関節周囲筋の未発達と投球フォームの未熟さによるものとして、理想的な投球フォームや日常の簡便な筋力トレーニングの方法について報告した。高山委員は手の外科専門医の立場から肘関節のスポーツ障害について、離断性骨軟骨炎の手術療法として独自で考案した肋軟骨付き骨釘移植術を報告した。

一戸委員は膝関節のスポーツ障害の代表的疾患である Osgood-Schlatter 氏病について、遊離骨片を形成する症例について初期治療と継続する管理の重要性を述べ、現場での指導者に対する啓発活動の重要性を報告した。白仁田委員は足関節の障害に関して自験手術症例を中心として、自己診断による安易な治療により手術に至る症例が少なくないことを報告し、啓発活動の重要性を強調した。山下委員による腰部のスポーツ障害は腰椎伸展時痛を呈する腰椎分離症について、早期診断による保存的治療、装具療法と理学療法の重要性を述べ、内視鏡や顕微鏡による低侵襲手術について報告した。

総合討議では小児のスポーツ障害予防のために、成長期の身体的・精神的特徴および種々の成長期スポーツ障害の一般への知識浸透と子どものスポーツ活動の環境整備や適切な指導方法の重要性に関する啓発活動の必要性について確認した。